



薫っ子 II



文責 校長 古川 次男

がまんの種

最近は見かけなくなりましたが、スーパーマーケットのお菓子売り場でお菓子を手にした幼い子が「え～ん、え～ん。これ買って」と、泣き叫ぶ姿を見たことはありませんか？同じようにおもちゃ売り場では、お気に入りのおもちゃを手に、じたばたと泣き叫ぶ子を見たことはありませんか？

こんなお話を先日の全校集会でしました。思いあたる薫っ子も、何人かいたかもしれませんが。赤ちゃんの頃は、おなかがすいたからといっては泣き、おしっこをしたからといっては泣き……。泣いて知らせることが、赤ちゃんの仕事のようでありました。そんな赤ちゃんも、言葉を覚えて言葉で知らせることができるようになったり、お菓子をおねだりしていた幼い子も、少しずつ我慢をできるようになったりして、成長していくものだと思います。

黄色い帽子と黄色いランドセルカバーが目印の1年生。入学当初の1ヶ月は、多くの保護者のみなさんが、学校まで一緒に登校してくださいました。それが、最近では友達同士で登校できる子が増えてきたようで、一緒に登校する保護者の姿も少なくなってきました。5校時がある日は、思わずお昼寝をしそうになった1年生もいたのではないのでしょうか？それが今では、しっかりと先生のお話を聞き、学習に集中できる子が増えてきているように感じます。がまんする心が、そう「がまんの種」が少しずつ大きくなってきた1年生に、入学後7か月の成長を感じます。

9日（水）は、開成山陸上競技場で校内持久走記録会を実施いたしました。低学年の部に始まって、中学年の部、高学年の部とブロックごとの実施としました。応援に見えらる保護者もあり、薫っ子もやる気満々でがんばっていたことと思います。残念ながら、同時刻に会議があり、子どもたちのがんばりを直接目にすることはできなかったのですが、写真等からその意気込みが伝わってきました。青空の下、立派な競技場での記録会のため、子どもたちもこれまで以上の力を発揮できたのではないかと思います。

実は、本番よりもこれまでの取組のほうが大事なのではないかと考えています。各学年で、体育の時間や休み時間を使って、校庭を何周も走る姿を目にしてきました。中には、マラソンカードに走った記録を書き込んで、記録が伸びていくことを楽しみにしていた子もいるようでした。

低学年は、校庭を2周します。長く走るのは大変そうので「がまんの種」の出番です。なんとか、ゴールできるように友達も応援します。

高学年の男子は、校庭を5周します。何周走ったかが分かるようにラスト1周で帽子を取りますが、疲れがピークに達するのかそれを忘れてしまうほどです。

低学年の校庭2周は「がまんの種」がアサガオの種の大きさぐらいだとすると、高学年の校庭5周はももの種ぐらいの大きさになるのでしょうか？どんどん大きな「がまんの種」となるよう、みなさんもがんばりましょう。という、話をしました。

日々成長する子どもたち。その成長の中で「がまんの種」も、大きくしていくことができたらいいなと思っています。

